

様式第 2 号

視察研修先	愛媛県松山市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	消防団について		

沿革

松山市は、愛媛県の中央部に位置し、瀬戸内海に突き出した高縄半島の西部に位置し、面積 4 2 9 . 3 5 K m<sup>2</sup>・人口 5 0 2 , 0 5 2 人で 4 0 0 年以上の歴史を誇る松山城や 3 0 0 0 年前に湧き出たといわれる道後温泉・偉人の正岡子規を始め多くの文化人を輩出した地でもある。平均気温が 1 6 . 5 度の温厚な瀬戸内海気候で、年間日照時間は 2 0 0 0 時間を超え、全国平均気温を大きく上回っている穏やかな恵まれた地域でもある。

所見

松山市消防団充実強化

(人)

	男 性	女 性	合計人数
基本団員	2, 0 3 8	1 0 3	2, 1 4 1
郵政	4 3	0	4 3
大学生	1 5 0	1 0 0	2 5 0
事業所	2 1	0	2 1
島しょ部女性	0	9	9
合計人数	2, 2 5 2	2 1 2	2, 4 6 4

基本団員は、火災、防災、市民の安心安全を守る組織である。基本団員の中から重機の操作資格を有した者を選抜機動重機消防団員として 4 2 人登録している。

女性団員は救命講習規律訓練・防火・防災指導の啓発や地域住民指導・独居高齢者訪問や消防団事務等や月一回の手話講習などの活動をしており、市民により身近な消防団として活動をしている。

郵政消防団は、機能別消防団員として、郵便物の配達で地域の事情に精通しており、この職務の特徴を消防団活動に活用しており、災害情報の収集や本部への連絡情報活動を行っている。

大学生消防団は、市内に 4 つの大学と専門学校があり、大災害時のサポート役として活動基本団員の負担軽減や消防団チアリーディングや音楽隊・避難所運営等での活動と平時の広報、P R 活動に特化した活動をしている。

事業所消防団は、機能別消防団員として、昼休みを利用して応急手当・土のう作成訓練や消防に関する教養や研修を行い日頃から意識向上に努めている。

松山市は島があるため、島には昼間活動するアイランド・ファイヤーレディースがあり、常日頃から、市民に密着して火災、防災を目指した取り組みをしている。

「まつやまだん団プロジェクト」は、I C機能カードの団員証を見せることで278か所の応援事業所から割引や優遇サービスが受けられる消防団員応援事業である。また、消防団応援自動販売機が市内16か所に設置してあり売り上げの一部を消防団互助会に還元している。消防団の応援を市全体で盛り上げているが、若者の機運がそれに伴っていないようだ。

消防団ポンプ蔵置所ラッピング事業は、ポンプ置き場のシャッターに小中学校の皆さんに絵を描いてもらい、市民から喜ばれているなど、常日頃から消防団のご苦労と火災・防災への関心を忘れないよう心掛けての活動であると感じた。本市で取り組みやすい事業として、各消防ポンプ庫のシャッターに子供たちの絵を描いてもらい、地域の火災・防災の意識付けに貢献できると感じた。

本市の出初式が1月14日行われ、女性消防団が司会や国旗掲揚などの担当として参加していたが新しい試みである。これから、女性団員の様々な所での活躍を期待している。

郵政職員の消防団については災害時の情報提供の大きさを強く感じてきた。昔は公務員の立場でしたが、現在は民間企業としての立場ではあるが、災害時は毎日各地区の隅々まで配達をして回る配達員は、地域の隅々まで知り尽くしていると思う。こういう人たちの協力や情報が災害時の大きな力になると感じてきた。災害時は、みんなの協力が必要となるため、常日頃から行政との協力関係を築いていかなければと感じた研修である。

視察研修先	愛媛県今治市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	今治市クリーンセンター（バリクリーン）について		
<p>沿革</p> <p>愛媛県の北東部に位置し、高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半部の島嶼部からなる。タオル、製塩、造船などが地場産業として発展。平成17年の合併により人口15万人、面積419,21K㎡となり、県下第2の都市として生まれ変わった。風光明媚な景観と、伊予水軍城跡などの歴史遺産を誇る観光都市として、また、造船、海事都市として重要性を高めている。</p> <p>所見</p> <p>新ごみ処理施設「バリクリーン」を視察</p> <p>バリクリーンは合併最大の成果の一つとして今治、大島、伯方、大三島の4つのごみ処理施設を集約し、今治市で唯一のごみ処理施設として稼働した。特徴として、最先端処理技術により、廃棄物を適正かつ安定的に処理するだけでなく、ごみの資源回収やごみ焼却熱を利用した高効率発電など、循環型社会の形成を推進している。また、災害時の避難場所としての機能を備え、地域を守る防災拠点としての役割を果たす施設となっており、市民生活の環境衛生の向上が図られ、万全な体制である。</p> <p>管理棟と工場棟に分かれており、工場棟はごみ処理施設と発電施設となるが、発電は、6,800キロワットで6,800世帯の電力が賄える。2億円の電気料金収入となる。</p> <p>管理棟は、防災拠点としての役割もあり、320人の市民が避難でき、非常食や飲料水を備蓄している。今治市の新しいごみ処理施設整備について検討中に東日本大震災が起き現在の施設となる。</p> <p>西村山クリーンセンターは最上川の氾濫時に被害が及ぶが、堤防より高い施設があり、ごみ処理棟には被害が及ばないだろうと推測しているが、周りの被害は避けられないと考える。また、下水道処理されない汚物の処理施設の損傷は大きな問題となりえると考えるので、対策が必要になる。</p>			

視察研修先	愛媛県四国中央市議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	子ども若者発達支援センターについて		
<p>沿革</p> <p>四国中央市は、平成16年4月1日に川之江市、伊予三島市、土居町、新宮村の2市1町1村が合併した面積421.24K㎡・人口82,947人のまちである。市街地が瀬戸内海に面し、山間部は、重要な水源地で大半を森林で覆われており、重要港湾三島川之江港を海の玄関口とし、製紙・紙産業を基幹とする工業が集積して、四国中央市の経済を牽引する役割を担っている。合併後は、パルプ・紙・紙加工品製造業の製品出荷等が連続で日本一である。市の特産は、水引細工、サトイモ、ヤマノイモ、エビちくわ、手すき和紙等がある。瀬戸内海と法皇山脈と四国山脈を有し、町、海、山と多様な表情をもっているまちである。また、全国高等学校書道パフォーマンス選手権が行われる。</p> <p>所見</p> <p>子ども若者発達センターは、2017年4月に鉄筋3階建て半円形・敷地面積3,637.59㎡10億円で建設。障害の有無に関わらず、日常生活を送る上で困難を有する子ども若者への一貫した総合的な支援をおこなっており、相談、療育、地域支援の機能を持つ施設として40人のスタッフが0歳から39歳まで支援している。66名の支援をしている施設である。</p> <p>施設には子供たちの運動する部屋や心を落ち着かせる部屋、絵本や動物図鑑がある読書部屋等が並んでいる。読書の時は、時間がわからない子のために時計にするしを付け時間を決めての読書となる。別棟には、言葉個別指導室や知能検査等ができる個室もある施設である。</p> <p>課題として、職員の人事異動により職員確保が難しい。市職員である以上仕方ない。</p> <p>本市においても、小学校就学前発達支援や小学校から高校までの放課後デイサービスや子どもサポート教室などの事業があり、小学校で放課後デイサービスの送迎車と出会うようになってきた。各施設の支援員の確保もしっかりお願いしたい。</p>			

視察研修先	香川県琴平町議会	氏名	阿部 清
視察研修項目	琴平町電子地域通貨「KOTOCA」について		

#### 沿革

琴平町は、香川県のほぼ中央に位置し、総面積は8.47K m<sup>2</sup>・人口8,294人となっています。「讃岐のこんぴらさん」で有名な金毘羅宮の門前町として栄えてきた歴史と文化のまちである。また、県内はもとより四国を代表する全国有数の観光地として250万人を超える国内外から訪れる観光地として発展してきたまちである。

#### 所見

琴平町は、令和3年から電子地域通貨「KOTOCA」の導入によるキャッシュレス化事業を展開している。新型コロナウイルス感染症で低迷している琴平町経済への対策として、町内におけるお金の地域内循環を促すことを目的としている。スマホアプリやカードを利用した電子地域通貨のキャッシュレス決済サービス「KOTOCA」を導入、令和3年12月から運用を開始している。

運用開始時、町民8,664人に5,000コトカを付与。利用率92.4%の使用率で推移、地域経済を活性化させるとともに、観光事業の推進、非接触の推奨による新型コロナウイルス感染症対策等を積極的に展開している。

令和5年度の取り組みは、チャージポイント還元キャンペーン（通年2%、5月と10月5%）新生児子育て応援金の町単独補助金をコトカで付与や町主催の健康教室出席者へのポイント付与をしている。

課題として、加盟店の増加や高校生の皆さんにも利用促進を図りながら『コトカ』の新しい活用方法を模索している。しかし、若者は、他地区の大きなスーパー等に行き物に行く傾向があり今後の大きな課題である。

キャッシュレス化が進んでいる中で、デジタル化の波に乗り切れていない状況がある。本市も、高齢者が取りこぼしにならないような環境が必要であると考えられる。